第２回運動部会議事概要

開催日時：令和８年１０月１５日（木）18：30～19:50
開催場所：名寄市役所　名寄庁舎第１委員会室
出 席 者：松澤　大介、清水　幸子、松浦　修司、上田　祐治、小笠原　志朗、
　　池野　純也、井上　正義、筒井　正敏

１　開　会

２　議　事

事務局：議事（１）「休日における地域展開の状況について」、（２）「他地域の取組事例について」の説明。

Ａ委員：部活動加入率は例年並みの割合なのか。地域クラブ活動が開始したことにより、影響はあったのか。また、地域クラブ活動の加入率は想定通りの割合なのか。

事務局：部活動加入率については、ここ数年８割程度で推移しているため、例年並みの数値となっている。この加入率に関しては、３年生が入部している時点での数値であり、地域クラブ活動が開始した時点での比較はしていない。来年度以降、数値に変動があるか検証することも考えたい。また、地域クラブ活動の加入率については、休日の地域クラブ活動を行うか、行わないかを生徒が選択できるという点から、生徒のニーズが数値に表れたものと考えている。

Ａ委員：地域クラブ活動の加入率を高いと考えるか、低いと考えるかが難しいと感じる。それによって、今後の取組が変わるものと考える。この加入率を保護者が見た時に、地域クラブ活動に加入しなくてもいいと気楽に感じられる場合もあれば、加入率の低下につながる場合も考えられる。

Ｓ委員：加入率の捉え方は様々である。数字の大小で良い、悪いを判断するべきではないと考えている。

Ｈ委員：地域クラブ活動に加入していない残りの４割の生徒がどう過ごしているかが重要なのではないか。

Ａ委員：個人的な感覚だが、休日のテニスコートの様子が変わってきていると感じている。これまでと違い、個人で利用している子ども達を見かけるようになった。地域クラブ活動には加入しなかったが、テニスはしたいという様子だと感じている。

Ｆ委員：部活動が学校にあることで、気軽に加入する生徒もいると考えていたことから、地域展開が始まることで、部活動の加入率に対して、地域クラブ活動の加入率が低

下することは想定できた。目的や考え方は生徒によって異なるが、仮に地域クラブ活動が大会に向けた活動という感覚であれば、部活動との方向性が合っていないのではないか。部活動は平日のみの活動となり、大会に向けた活動ではなくなっていることから、学校で運動をするという感覚が強まっている可能性があると感じている。

H委員：地域展開によって、居場所を失う生徒が多くいるのであれば、対策が必要と考えるが、地域クラブ活動に加入していない生徒が充実した生活を送れているのであれば、好ましい状況である。

S委員：調査は必要と考える。ただし、自宅で休息することを求めている場合もあり、充実しているかどうかの判断は難しいと考える。また、本人と保護者で感じていることは異なると考える。

A委員：休日における地域クラブ活動に対する意向を把握することで、平日の地域展開に向けて、運動を楽しみたい生徒に向けたクラスを設定するなどの提案することも可能だと考える。意向を把握してからにはなるが、そういったアプローチがないと、加入率は低下していく可能性がある。

N委員：中学生から野球を始める子どもが少ないと感じている中で、部活動をきっかけに中学生から野球を始め、地域クラブ活動にも加入してくれたことを大変うれしく感じている。今後、平日も地域展開を進めていくことになっているが、活動を始めるきっかけとなる部活動が残ってくれたらという思いもある。

S委員：議事（3）「平日における地域展開に向けた検討について」の説明。

F委員：議論する根拠となるデータがないため、まずは、地域展開についての課題等を聞き取ることが必要だと考える。ただ、地域クラブ活動が開始したばかりで、各地域クラブが試行錯誤しながら実施している最中であることを想定すると、現時点で課題を聞き取ることが適しているのかは不明である。

A委員：地域クラブ活動において練習や大会をある程度経験した後に調査を行うことが適していると考える。調査の方法については各地域クラブ活動の指導者へのヒアリングを行うことや、必要に応じて現地視察することも考えられる。

S委員：地域展開に関わる対象として、生徒、競技団体、保護者、教員の四者に対し、調査を行うことも考えられる。実施時期についてご意見をいただきたい。

A委員：地域クラブ活動が開始し、不満を持った生徒が辞める前に調査を行うのが大事ではないか。休日の地域展開だけではなく、平日の地域展開を含めた課題を解決して

いかなければ、加入率の低下につながるものだと考える。

Ｓ委員：四者に対しての調査は分析が難しいが、１２月頃を目途に回答いただくようなスケジュールを考えたい。休日における地域展開の課題を聞き取り、次年度に向けた対応や平日における地域展開につながるように部会で協議していかなければならない。今後の平日における地域展開については、指導者の確保、活動場所の確保、生徒の移動など仕組みを構築しなければ難しいと感じている。例えば、放課後の学校開放の利用開始時間を早められる可能性はあるのか。

事務局：平日の地域展開が一律に実施されるのではなく、部活動と地域クラブ活動が併存した場合、施錠の運用方法や責任の所在など部活動との整理が必要であると考える。現段階で平日の地域展開は可能なところから進めることとしているが、こういった課題もある。平日の地域展開の時期についても一律に設定することも考えられる。

Ｓ委員：現段階では、平日の地域展開について可能なところ進めていくとなっているが、部活動と地域クラブ活動が併存した際の問題もある。ＳＥＡの活用などにより指導者を確保できれば、平日の地域展開を実施できる団体が出てくる可能性はあると考える。

Ｎ委員：剣道は平日に３つの会場で各団体が連携して活動しているが、参加しない生徒もいれば、大会に出場しない生徒もいる。学校や生徒、保護者からそれぞれ要望があるため、すぐに進められるものではないと認識している。

Ｓ委員：指導者や活動場所などの課題に対する仕組みを検討した上で、進めていかなければならない。活動場所の確保については、特に平日の夜間のニーズが高くなるため、学校開放やスポーツセンターの利用時間の延長などを含めて検討する必要があると感じている。また、子ども達の活動と、それを支えている大人達のスポーツ活動の両方を支えていく必要があると考える。

Ａ委員：昨年からの状況を見ていると、地域クラブ活動の中でも、バスケットボール、バレーボール、ソフトテニス、卓球、バドミントンの主に５つの競技で指導者や活動場所の課題が大きいと感じているため、重点的に取り組むことも考えられる。平日の地域展開を行った際には、地域クラブ活動と部活動がない既存のクラブとの整理はどうなるのか。

事務局：現在は、部活動から地域クラブ活動に転換した団体に対して、スタートアップの支援を行っている。地域クラブ活動と既存クラブと同じ立場になった際は現在とは違う視点で考える必要があると考える。

Ｓ委員：現段階から、地域クラブ活動の紹介に合わせて、既存クラブを紹介することを検

討してみるのもよいのではないかと考えている。平日の地域展開に向けた取組として、生徒の選択肢を広げられることも考えられる。

Ａ委員：ニーズがあれば、部活動のように放課後に活動の選択肢があって、運動できる環境について検討してみることも考えられる。バド.ＬＡＢＯがモデルケースとして考えられるかもしれない。

Ｓ委員：今後は、１２月を目途に休日の地域展開のフォローを含めた調査を行った上で、その課題等に対して何ができるかという視点で検討していきたいと考えている。また、その中で平日の地域展開につながるような検討を進めていきたいと考えている。生徒の活動環境を確保する視点が大きいが、教職員の負担軽減といった課題に対しても、配慮しなければならないと考えている。子ども達と教職員の幸福度が向上することが望ましい。

Ｆ委員：地域クラブ活動の指導者の負担についても同様に考える必要があると考える。

事務局：平日の地域展開に向けた仕組みを検討した上で、一斉に進めることを目指すということでよいか。

Ｓ委員：現段階では、現在の環境で可能な団体は進めていくということになっている。スタートする時期を定めるのか、期限を設けるのかということも考えられるのではないか。

Ａ委員：先延ばしにすることで、現在の指導者の年齢が上がることや、生徒数や部活動加入者数の減少することも考えられる。

Ｈ委員：活動場所の運用方法など、先に仕組みを提示しなければならないと考える。小学校では少年団が早い時間から活動している。学校開放を１６時から２２時まで利用時間を延長し、２時間ごとに３つの利用可能時間を設定することも有効だと考える。

Ｓ委員：少年団の利用は、学校と少年団の関係性によって運用されている部分がある。学校と個別に調整を行う必要がある。

３　その他

４　閉　会